

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人鹿屋体育大学

1 全体評価

鹿屋体育大学は、全国でただ一つの国立の体育大学という特性を十分に生かし、健全な身体と調和・共生の精神を併せ持つ人材の育成に必要なスポーツ・身体運動を通じて、創造性とバイタリティに富む有為の人材を輩出するとともに、体育・スポーツ学分野における学術・文化の発展と国民の健康増進に貢献し、もって健全で明るく活力に満ちた社会の形成に寄与することを目指している。第3期中期目標期間においては、国際社会で活躍できる有為な人材を養成するとともに、東京オリンピック・パラリンピック大会での活躍を目指す学生をはじめ、国内のトップアスリートの競技力向上につながる科学的サポートを実施すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、外部有識者を配置したスポーツアドミニレーション室が中心となり、大学横断的かつ競技横断的統括組織（「日本版NCAA」）創設に向けたモデル事業として「KANOYA モデル」を始動し、鹿屋市との共同スポーツブランドである「Blue Winds」の立ち上げや地域住民参加型のスポーツタウンミーティングを実施しているほか、世界的なスポーツ研究拠点形成に向け、スポーツパフォーマンス研究棟の機器を活用した国際共同研究を行うなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- アジアでのオリンピック教育プログラムの開発と世界のスポーツ界で活躍できるグローバル人材育成を目的とした、国際スポーツ・アカデミーセミナーを開催し、所属教員及び国内外から招へいた講師陣により、アジア各国・地域から訪れた若手のコーチや研究者に対して講義を行うとともに、国際カンファレンスを開催し、国内外からの発表者によるポスターセッション等を行っている。（ユニット「スポーツ界で活躍できるグローバル人材の育成」に関する取組）
- 「貯筋運動プロジェクト」の普及推進について、南九州市及び大分県、カセサート大学（タイ）において貯筋運動の介入研究を実施している。また、「鹿屋市民の運動習慣・体力・筋力調査分析のための測定・調査（平成27年度から平成29年度実施）」においては、鹿屋市民約700名の測定・調査結果に基づき、今後のヘルスプロモーション政策の基礎資料として、地区別の運動実施率、生活満足度等を取りまとめている。（ユニット「国民の体力・運動能力の向上及び健康の維持増進を目的に地域と連携した貯筋運動の推進」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ スポーツを通じた地域活性化モデル確立のための組織体制整備

学長及び理事のリーダーシップの下、大学スポーツ振興モデルの事業展開、企画立案及び体制整備を目的に外部有識者を配置したスポーツアドミニストレーション室を設置し、大学横断的かつ競技横断的統括組織（「日本版NCAA」）創設に向けたモデル事業として「KANOYAモデル」を始動させ、各種スポーツ教室やプロバスケットボール公式戦の開催、鹿屋市との共同スポーツブランドである「Blue Winds」の立ち上げ及び地域住民参加型のスポーツタウンミーティングの実施等、スポーツを中心とした地域活性化モデルの確立に向け全学的に取り組んでいる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 多言語による情報発信

大学が有する設備の国内外へのアピール及びトップアスリートの受入等を目的として、スポーツパフォーマンス研究棟のパンフレット及びウェブサイトを、既存の言語(英語、フランス語、中国語、台湾語、韓国語)に加え、スペイン語とタイ語版を新たに作成して8言語対応とし、東京オリンピックの事前キャンプ地の誘致活動等に活用している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ **スポーツ研究拠点形成に向けた国際共同研究の推進**

世界的なスポーツ研究拠点の形成を目指し、スポーツパフォーマンス研究棟の機器を用いてオークランド工科大学（ニュージーランド）の研究者との共同研究を実施しているほか、大学独自予算による海外研究者受入事業による海外大学の研究者受入等、国際的な共同研究を推進している。